

# ペーパーレス会議のさまざまなメリット

## — タブレット端末を活用した「モバイル会議」 —



企業ではペーパーレス化（紙使用量の削減）に以前から取り組んでおり、業務の多くの部分は電子化されたが、会議などではいまだに紙の資料が使われることが多く、ペーパーレス化は思ったように進んでいないのが現状である。本稿では、NRIネットコムの「モバイル会議」の紹介を通じてペーパーレス会議のメリットを解説する。

NRIネットコム Webネット事業本部  
デジタルマーケティング事業部 ビジネスプロデューサー

たかしま ひでみ  
高島 秀実

専門はペーパーレス会議システムの企画・営業

### ペーパーレス化は継続的な課題

最近、「ワークスタイル改革」というキーワードを目にする機会が多くなった。そのため展示会なども開催され、注目度は増すばかりである。ワークスタイル改革にはさまざまな要素があるが、その1つであるオフィスワークのペーパーレス化は、コスト削減だけでなく環境保護という観点からも必要性が叫ばれ、継続的に取り組まれてきた大きなテーマである。

しかし、それにもかかわらず企業内ではいまだに多くの紙が使われている。日本製紙連合会が発表した「2015（平成27）年 紙・板紙内需試算報告」によると、2014年の情報用紙（コピー用紙、インクジェット用紙、ノーカーボン紙、感光紙、感熱紙など）の国内需要は183.2万トン（報告時点では年間見込み数値）で、対前年比99.6%のわずかな減少でしかない。このような傾向は過去数年続いている。数字で見る限り、オフィスのペーパーレス化はそれほど大きくは進んでいないようである。

確かに、ホワイトカラーの社員が1人1台のPCを持つ環境は当たり前になり、個人による資料づくりなどのオフィスワークはほとんどがPCを使って行われるようになってきている。またオフィスには、原稿をスキャンして電子ファイル化するなど、紙を削減するための機能を備えた複写機（複合機）が多く導入されている。それでもオフィスで使われる紙の削減は思うように進まず、打ち合わせなどの会議に紙の資料を用意する企業はいまだに多数である。ペーパーレス化を推進するのであれば、会議のペーパーレス化（ペーパーレス会議）に本気で取り組む必要があるのではないだろうか。

### ペーパーレス会議のメリット

ペーパーレス会議には、用紙コスト、印刷コストの削減という大きなメリットがあるが、それ以外にも重要な点がある。大きいのは、会議の質の向上である。通常の会議では、発表者（発言者）が参加者に資料のある箇所を見てほしいと思っても、参加者は各人

の興味に従って別の部分を見ているかもしれない。ペーパーレス会議の場合はスクリーンや手元のモニターに、発表者が見てほしいと思うものを表示できるので、論点に集中することが容易になる。会議の進行もスムーズで、時間の節約にもなる。事前に資料のファイルを会議用のサーバーに格納して、参加者が内容を把握できるようにすれば、中身の濃い議論ができる。

また、会議資料の準備（資料のプリントなど）、会議後の資料の回収・保管・管理・廃棄などの事務作業を大幅に減らせるので、手間やコストを大きく削減できる。遠隔会議に利用すれば、出張旅費の削減にもつながる。そのほか、会議資料が電子ファイルであれば、紙の資料より情報セキュリティを強化しやすいというメリットもある。

## ペーパーレス会議の3つの方法

現在、ペーパーレス会議の実現方法としては、主として以下の3つがある。

- ①専用の会議システムの利用
- ②プロジェクターや大型ディスプレイを使った会議資料の表示（PC画面の拡大表示）
- ③タブレット端末などをモニターとして利用

①は、会議室などに備え付けられた専用システムで、各デスクにはモニターが装着されている。以前から利用されてきた歴史のある方式だが、高価で、移動させることもできないため、導入は大企業の役員会議室などごく一部にとどまっている。

②は、ペーパーレス化を推進している多くの企業で採用されている。野村総合研究所

（NRI）グループでも、2005年～2007年頃から全ての会議室、打ち合わせブースにプロジェクターやディスプレイを設置し、全社員にノートパソコンを配布してペーパーレス化を進めている。この方式は、少人数の打ち合わせの場合は手軽で便利であり、また報告会やセミナーなどの大会場で一方的にプレゼンをするような場合にも適している。しかしその場合でも、人数が多くなって会場が広がるほど遠くの人にはスクリーン上の文字が読みにくくなるので、結局はプレゼン資料という紙の文書が欲しくなる。また、大きな効果を上げるためには大規模な投資（全社展開）が欠かせないため、多くの企業で導入できるわけではない。

③は、会議参加者に1台ずつタブレット端末を持たせ、画面に会議資料を表示するもので、手軽で安価なシステムでありながら本格的なペーパーレス会議を実現する。説明者が持つタブレット端末の画面に表示するドキュメントと参加者の画面とを同期させることができ、参加者は手元の画面で細かい部分を確認することが容易である。これによって会議の進行もスムーズになる。遠隔地との間でも同期させることができるので、本支店間の遠隔会議などにも利用できる。

この方式の始まりは、2010年のApple社のiPad発売を機にNRIネットコムが提供を開始したペーパーレス会議システム「モバイル会議」である。「モバイル会議」は損保、運輸、不動産、食品などの大手企業を中心に導入事例が豊富で、現在では類似の製品も多く登場するなど、ペーパーレス会議を実現する方式の1つとして定着しつつある。

### ペーパーレス会議導入のネック

タブレット端末を利用した手軽なシステムの登場で、ペーパーレス会議の導入が進むと思われたが、そのペースは決して速くない。導入企業でも、経営レベルの会議にとどまり、部課のレベルで使われている企業はまだまだ少ないのが現状だ。「モバイル会議」も、短期間で導入に至る企業がある一方で、1～2年の検討の後に話が立ち消えになる企業も多い。われわれの経験に基づいて分析すると、ペーパーレス会議が浸透しないのは以下のような理由によると考えられる。

#### ① IT環境の制約

タブレット端末を使うモバイル会議システムは、WiFi（無線通信規格の1つ）環境が未整備のために導入できない企業がある。また環境が整備されていても、情報セキュリティの観点から社内でのWiFi利用について制限を設けている企業が多い。

#### ② 画面サイズの制約

伝統的企業を中心に、今までA3判の用紙で会議資料を作ってきた企業は非常に多い。タブレット端末は画面サイズが小さいので、その資料をそのまま使うと資料が見えづらく使いにくい。

#### ③ PCとの重複

前述のように企業では社員にノートPCなどを配布していることが多い。新たにタブレット端末を配布するのはPCとの重複感があり、コスト面でも抵抗がある。

#### ④ 経営幹部の紙への固執

これまでの習慣を変えることへの抵抗感を持つ人は少なくない。ペーパーレス化に反対

する役員が1人でもいると導入が進みにくいのが実情である。

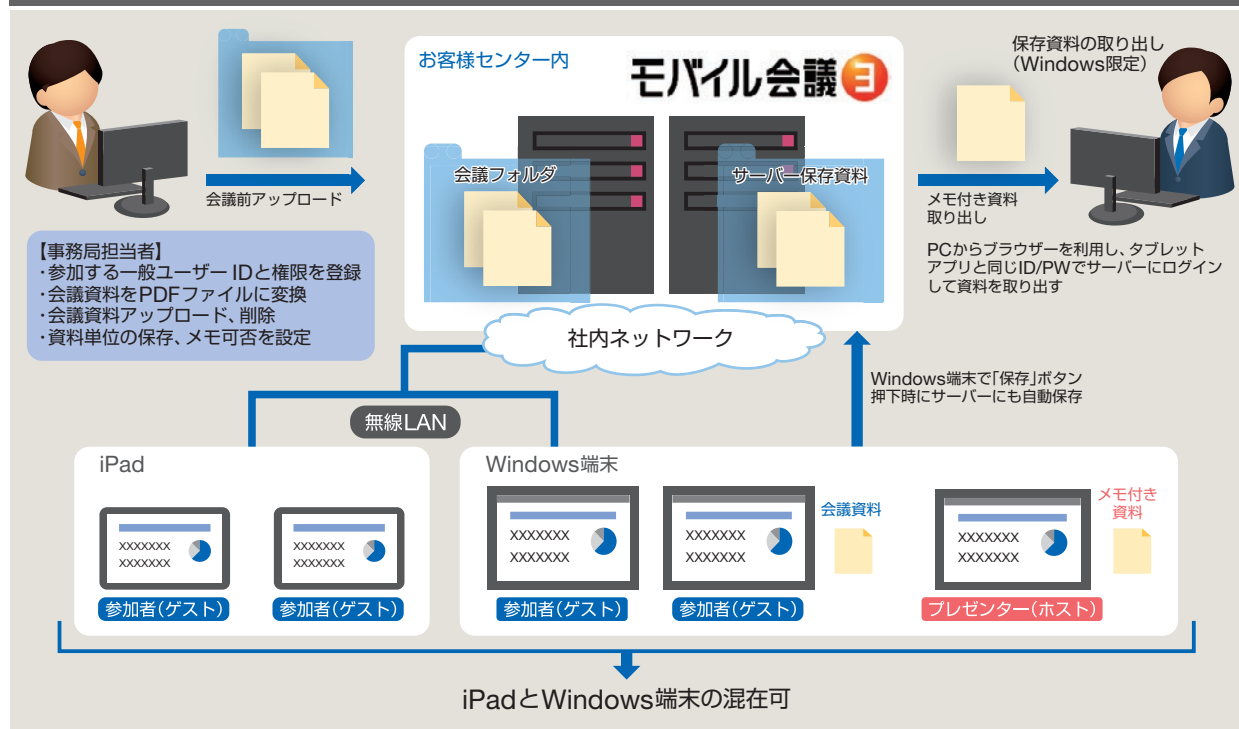
### ペーパーレス会議導入のポイント

では、どうすればペーパーレス会議を導入しやすくなるだろうか。ここでそのポイントについて考えてみたい。

一般に、会議のやり方や会議資料のフォーマットなどは、企業風土を色濃く反映しており、その企業の文化とも呼べるものである。本格的なペーパーレス化を進めるには、その文化を変えるという決断も必要となる。そのため、経営トップの理解とリーダーシップが重要となる。その上で、実際に始める際は、まず経営層が参加する役員会議などでの導入から始めるとよい。ペーパーレスの役員会議が定着すれば、各役員が管掌する部門での利用に広がっていく。その後、部課レベルでの利用を促進するためには、特定の会議スタイルにとらわれない、自社のIT環境に即した仕組みを選択すべきである。

また、ペーパーレス会議は紙の資料をベースとした会議と完全にはならないことを理解する必要がある。紙には紙の良さがあるので、全てをペーパーレスにしようと考えなくてもよい。ペーパーレス化の検討に際しては、会議（準備や会議資料）の何を変えて何を維持するのか、事前によく話し合うことが重要だ。何を目的とし、何を重視するかによってツールの選択は異なり、ツールの導入で全てが解決するわけでもない。ペーパーレス化のメリットを享受するためには、会議運営のプロセスや会議資料の作り方についても

図1 「モバイル会議3」の構成イメージ



検討すべきである。

### 導入が一気に進む兆し

最近、NRI ネットコムでは、「モバイル会議」を導入して効果を実感したお客さま企業から、あらためて全社に展開したいという相談をいただくことが多い。これまでの導入実績を基にしたペーパーレス化検討のためのコンサルティングサービスを提供するケースも増えている。

部課レベルを含むペーパーレス会議の全社展開には、これまでタブレット端末の配布やWiFi環境の整備がネックとなっていたが、タブレット端末がオフィスに徐々に浸透してきていることからWiFi環境の整備も進んできた。PCをタブレット端末に入れ替える動きも見られ、これらによって状況が変わろう

としている。情報セキュリティを担保した社内利用ルールを整備した上で、WiFi環境を社内インフラとして整備する企業も増えつつある。これらは、ペーパーレス会議の導入が今後、一気に進む兆しと考えていいのではないだろうか。

NRI ネットコムでもこうした流れを受けて、Windows環境でも利用できるようにした「モバイル会議3」を発売した(図1参照)。「モバイル会議3」は、現行製品のユーザーインターフェースを踏襲しつつ、ペーパーレス会議システムを超えて、全社のインフラとして利用できるようアーキテクチャーを一新している。「モバイル会議3」が、全社レベルのペーパーレス会議の実現と、さらにはペーパーレス化を通じた企業活動の一層の活性化、情報セキュリティの向上に貢献できることを願っている。